



## コスタリカ共和国 草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 29

2018.10.31

# ~成長と幅広い活動~

NPO 法人イフパット 研究員 宮﨑 雅之 (現地調整員/生活改善ファシリテーター)

¡Qué tal! こんにちは、さてさて 2018 年最後のコスタリカ派遣となり、プロジェクトも終盤を迎える中での現地での活動について、紹介させて頂きます。

ファシリテーターの技術力向上: ファシリテーターのこれまで活動の復習を兼ねて、保健 省職員のエリーさん、市役所職員のジェフリーさんが「生活改善アプローチにおける寄添い 活動の中で重要な要素」について発表をしました。2016 年から始まったプロジェクトの初 期メンバーであるこの 2 名が代表して、彼らが考える寄添い活動について、他ファシリテー ター、短期専門家、現地調整員を含めて意見交換を行いました。



写真 1. ジェフリー職員の発表

### 寄添い活動における必要不可欠な要素



写真 2. 発表資料の一部

## 寄添い活動とは:



- グループ員が個人活動を実現するための先導を行う。
- ▶ 各自が目標を達成するために必要で活動である。
- ファシリテーターがグループ員にやることを指示するのではなく、グルーブが自主的に何をするかを決定するために支援をする。具体的には、何を改善にしたいかを鮮明(どのように、いつ)にして、現在本人たちが気づいていないが既に持っている物や在るものの助言を行う。
- ファシリテーターはその場にいて、実施しなければならないことを把握していても発言せず、グレープ員の発想や考えの整理を手伝う。



# EL AMOR QUE EL FACILITADOR DE AL ENFOQUE ES EL ÉXITO

### 写真 3,4. エリー職員の発表資料抜粋

セバディージャ・ノルテでのグループ活動:グループ活動として、サンタリタとセバディージャ・スルで実施されたような、集落の美化活動が行われました。ゴミ袋を持って、小さいこどもも一緒に道路や広場に落ちているゴミを拾いました。また、集落のバス停に農作物等の運送に使用するプラスチック籠を2つ重ね、簡易ごみ箱を設置しました。いつもバス停にお菓子や飲み物のゴミが落ちていることに住民は危機感を感じていたようです。今回、グループ員が集まったことによって、住民が課題と感じていたことを実際に改善するきっかけになりました。お手製のごみ箱に溜まったゴミに関しては、近隣に住むセシリアさんが一般ごみ収集日に家庭のごみと一緒に出すこととなりました。地域住民がごみ箱にゴミを捨てることをグループ員は願っています。さらに、集落の全員が使用するこのバス停を綺麗したいということで、廃棄予定だったタイヤにペンキでピンク色をつけて、そこに土、花を植えました。ミニ花壇の完成です!花をつける日が楽しみです。





写真 5.6. 集落で清掃活動





写真 7,8. 回収した籠でごみ箱作成





写真 9, 10. 回収したタイヤで花壇作成

### グループ員の個人活動紹介:

#### ・フランシスカさん

今年の3月から生活改善ワークショップを開始したセバディージャ・ノルテのフランシスカさん、家に引き籠りがちでしたが、グループの会合や活動に参加することで、家庭で前々から行いたいと思っていた改善活動を開始しました。どのタイミングで本人のやる気スイッチが入ったのかは不明ですが、生活改善ワークショップをきっかけにもともと興味や経験のあった家庭菜園に取り組むようになりました。今では、レタスやネギの収穫があるようです。また、旦那さんの協力も得て、ミニビニールハウスの設置、雨漏り対策のための家の壁改善や使用していなかった部屋を整理・整頓して工具の倉庫にしました。

本人は健康面に様々な問題を抱えており、数種類の薬を服用しています。今後は少しでも、服用を減らすためにバランスの良い食生活に取り組みたいと意気込んでいました。





写真 11, 12. 自宅で家庭菜園スタート

### ・マリアさん

サンタリタ村で昨年末に行われた清掃活動をきっかけに生活改善グループに参加し始めたマリアさん、既に3人のお孫さんがいる若いおばあさんですが、とても活発で責任感が強く、グループ内に非常に良い調和をもたらしてくれています。その性格が買われ現在ではグループの書記を任されています。そのマリアさんが家庭の改善で取り組んだのが台所改善です。旦那さんの協力の元、元々は左隅にあり使いづらかったシンクを中央に移動させ、左側のスペースを調理スペースとして活用し、コンロとも近くなり、より効率的に調理を行えるようになりました。また、コンクリート直張りだった台所にタイルも張り付けて、見た目も可愛くして本人の気分もより高まったようです。今後は、玄関の門がボロボロなので少しずつ修理をして行きたいとのことでした。





写真 13, 14. 台所改善風景と新しくなったシンクで歯を磨くお孫さん

本邦研修: 本年で3回目となる本邦研修が8月に実施されました。本年はファシリテーターではなく、オロティナのグループ員が3名、先進事例グループであるAMAGROから1名のグループ員が参加しました。また、専従職員として奮闘しているルイス職員も参加しました。JICA 筑波、東京では講義、松川町では実際に生活改善グループと意見交換を行い、様々なことを学んでコスタリカへと帰国しました。日本の生活改善グループ員さんとの意見交換では、グループ員同士の信頼関係がグループを長続きさせる鍵だと感じたようです。どんなことでもお互いに話し合える関係を創り上げることが重要と学んだものの、現状は自分たちのグループで言いたいこと言ってしまうとグループが崩壊してしまうため、お互いの信頼関係をより強固なものにするために様々な活動に取組む必要があると、帰国してからの活動をイメージしていました。また、保育園、小学校、障がい者施設の視察においても、こどもたちに対する教育や実際に障がいを持った方が仕事をしている姿を見て、教育レベルの高さ、支援の手厚さに驚いていました。何よりも小さい頃から規律を守り、礼儀を持って人に接する姿を見て感銘を受けていました。



写真 15. 松川町での交流会



写真 16. JICA 筑波にて表敬訪問後の記念撮影